

参考資料

平成23年3月8日

平成22年度献血受入計画（平成22年度4～12月）における取組み状況と
平成23年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

1 平成22年度4～12月における各都道府県別の血液確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較 別紙1のとおり

2 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析

各血液センターにおける献血受入計画（平成22年度4～12月：平成22年度の受入計画を3/4したものの）の目標量151.7万Lに対する確保量は155.4万Lで、達成率は102.4%となっており、確保量が目標量を上回っています。これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果です。また、全体の血液確保量155.4万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は148.3万L（使用量に対する確保率104.8%）です。7.1万L（確保量の4.6%）が未使用量として計上しておりますが、この中には検査不合格と期限切れが含まれています。

以上のことから、平成22年度は、安定供給が確保されています。なお、安定供給を確保する上で、ある程度の未使用量が発生しますが、引き続き、より一層需給管理の精度向上と需給調整による有効活用を図ってまいります。

3 血液製剤の安定供給等に係る取組み

輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組みを行っています。

(1) 血液事業本部の取組み

血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する「血液事業推進委員会」を設置しています。特に輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、同委員会の下に「安定供給促進小委員会」（原則毎週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安

定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

(2) 各血液センターの取組み

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中期的需給計画を策定しています。

また、基幹センターは、上記の血液センターとしての対応に加え、管内血液センターの需給状況（採血・製造・供給状況等）の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っています。

(3) 在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙2）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った血液センターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を、基幹センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

平成22年度については、注意報水準が2回発生していますが、全て一過性のもので、需給調整等の早急な対応により翌日には回避しております（警報水準発生はなし）。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

⑤ 更に、赤血球製剤在庫が減少する冬季対策として、各ブロックの赤血球在庫が適正在庫数の120%以上で推移するよう需給管理を図っております。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成22年10月、平成23年1月に基幹センター需給管理担当課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、各基幹センターにおいても管内の血液センターを招集し、そこに血液事業本部からも職員を派遣して冬季・春季献血者確保対策の検討を行いました。

4. 平成22年度献血受入計画の進捗状況

平成22年度献血受入計画として、核となる対策と取組みを血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組みの実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

- ・ 小中高生を対象とした血液センター等の見学受入れの推進（体験学習を通じて献血に触れ合う機会を創出し、献血への理解を求める）

<平成21年度実績>

実施回数589回 参加人数34,642人

<平成22年度上半期実績>

実施回数402回 参加人数17,765人

- ・ 10代後半から30代前半の若年層を対象に献血への理解促進を図るために血液センター施設などを利用し、血液事業の紹介等のセミナーを開催

<平成21年度実績>

実施回数380回 参加人数41,091人

<平成22年度上半期実績>

実施回数208回 参加人数13,939人

(2) 企業・団体における献血の推進対策

- ・ 新規協力企業及び団体の開拓
- ・ 献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

<平成21年度実績>

ロゴマーク配布数1,450件 協賛企業・団体数4,794件

（協賛企業・団体数は事業開始の平成18年度からの累計は43,193件、ロゴマークの配布数は6,130件となっている）

<平成22年度上半期実績>

ロゴマーク配布数1,204回 協賛企業・団体数1,292件

(3) 複数回献血者確保対策

- ・ 「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・ 「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施

<平成22年度上半期実績>

複数回献血クラブ会員数251,696人（平成18年度末より156,703人増）

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

（平成21年4月1日～平成22年3月31日実績：31.0%（前年同比1%上昇））

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

（献血受入体制への取組み）

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

（広報活動への取組み）

- ・ 7月「愛の血液助け合い運動」
 - ・ 7～12月「第5回いのちと俳句コンテスト」
 - ・ 12月「全国学生クリスマス献血キャンペーン」
 - ・ 1～2月「はたちの献血」キャンペーン
 - ・ 通年「LOVE in Action プロジェクト」
- を全国で展開しました。この他、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝えるための映像を製作したことから、各血液センターにおいて、講演会や、施設見学時、学校等での上映会を実施し、効果的な広報を実施した。

（血液センターにおける献血者確保への取組み）

- ・ 複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブ会員へ情報誌の発行や、AED講習会等を実施する他、電子メールを活用した献血依頼を実施。また、リーフレットを作成する等して、新規クラブ会員の確保を実施

- ・ 需要に応じた400mL 献血を推進
- ・ 需給予測に基づき、固定施設における受付時間の延長や移動献血バスの増車による献血受入等の措置を実施
- ・ 新規献血協力企業・団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼
- ・ 学生献血推進ボランティアと連携して、若年層献血者確保対策として大学等における献血を実施
- ・ 地域の特性に応じてキッズスペースを整備し、親子が献血に触れ合う機会を設け、献血者確保を実施

5 平成22年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成 21 年度供給数の実績と平成 22 年度上半期の供給数を中心に、過去 3 年の供給動向(別紙 3) から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・ 献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別(献血ルーム、献血バス、出張採血)の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

・ 献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組みを計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組みの積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組みは、これまで過去に行ってきた取組みの中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成 22 年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙 4 のとおりです。

平成 23 年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙 5 のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組みの進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組み事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組みを月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

平成22年4~12月各都道府県別献血者数一覧

各都道府県別血液確保量等一覧(平成22年4~12月)

No.	都道府県名	血液確保量			血液使用量			献血者使用量			
		受入計画量 A	献血量 B	B-A	計画達成率 B/A	供給量 自センター+輸 センターへの私 出	原料血液 送付量 C	血液 使用率 C/B	未使用量 D=B-C	未使用率 D/B	
1	北海道	77,255	82,002.26	4,747	106.1%	43,176	33,649	76.827	93.7%	5,175	6.3%
2	青森県	16,704	18,423.95	△ 280	98.3%	7,334	6,542	15,976	96.7%	548	3.3%
3	秋田県	13,641	14,559.80	919	106.7%	6,423	7,123	13,546	93.0%	1,014	7.0%
4	福島県	25,358	27,787.63	2,430	109.6%	12,328	13,889	26,221	94.4%	1,567	5.9%
5	茨城県	30,186	29,514.06	△ 652	97.8%	13,048	15,044	28,092	95.2%	1,422	4.8%
6	栃木県	22,413	24,025.98	1,613	107.2%	10,932	12,297	22,829	95.0%	1,197	5.0%
7	群馬県	22,952	24,746.40	1,794	107.8%	11,377	11,388	22,765	92.0%	1,981	8.0%
8	神奈川県	101,748	94,973.01	△ 6,775	93.3%	41,931	52,997	94,926	100.0%	45	0.0%
9	新潟県	26,019	28,656.42	2,638	110.1%	12,318	14,118	26,434	92.2%	2,224	7.8%
10	静岡県	41,194	41,364.02	170	100.4%	17,879	22,188	39,867	96.4%	1,497	3.6%
11	京都市	33,716	33,921.20	205	100.6%	17,130	15,956	32,186	94.9%	1,735	5.1%
12	奈良県	15,741	16,373.11	632	104.0%	7,848	7,377	15,225	93.0%	1,149	7.0%
13	山口県	17,549	18,150.57	602	103.4%	8,487	8,474	16,961	93.4%	1,190	6.8%
14	沖縄県	17,102	17,135.66	34	100.2%	8,485	8,203	16,666	97.4%	448	2.6%
15	宮城	54,243	56,339.80	2,097	103.9%	23,920	29,617	53,537	95.0%	2,803	5.0%
16	1(岩手、山形)	97,227	96,432.87	△ 794	98.2%	41,956	52,148	94,106	97.6%	2,327	2.4%
17	2(埼玉(長野))	254,537	257,214.96	2,678	101.1%	132,394	121,798	254,192	98.8%	3,023	1.2%
18	3(山梨、千葉)	34,499	36,813.53	2,315	106.7%	18,439	18,236	34,675	94.2%	2,139	5.9%
19	4(富山、福井)	123,650	128,983.90	5,344	104.3%	55,703	65,798	121,499	94.2%	7,495	5.8%
20	5(岐阜、三重)	77,328	77,389.53	62	100.1%	35,456	39,318	73,774	95.3%	3,616	4.7%
21	6(兵庫(滋賀))	129,203	135,867.35	6,664	105.2%	62,937	62,986	125,923	92.7%	9,944	7.3%
22	7(大阪(和歌山))	32,721	33,281.75	561	101.7%	15,853	14,820	30,773	92.5%	2,509	7.5%
23	8(岡山(鳥取))	44,386	45,026.68	641	101.4%	20,909	22,186	43,075	95.7%	1,852	4.3%
24	9(広島(鳥取))	49,725	52,861.46	3,136	106.3%	26,562	24,847	51,209	96.9%	1,652	3.1%
25	10(徳島、高知、香川)	158,120	163,917.26	5,807	103.6%	72,282	79,322	151,604	92.5%	12,213	7.5%
26	合計	1,517,197	1,553,675	36,478	102.4%	722,409	780,403	1,462,612	95.4%	70,863	4.6%

※受入計画量は、平成22年度受入計画を3/4としたもの。

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						合計
		血小献献	血献献	400mL献	200mL献	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
1	北海道	31,603	9,682	146,579	26,881	214,745	13,245	37,797	49,261	51,533	42,874	20,275	214,745
2	青森県	7,587	4,956	25,099	6,455	44,077	3,470	7,984	11,156	11,319	7,692	2,454	44,077
3	岩手県	6,972	5,815	22,239	8,864	43,970	4,845	8,731	10,065	9,782	7,808	2,559	43,970
4	福島県	11,525	14,338	36,551	8,548	70,962	5,778	18,110	17,859	16,687	9,577	2,959	70,962
5	秋田県	6,973	4,799	20,628	7,301	39,701	4,227	9,288	10,148	8,828	5,752	1,458	39,701
6	山形県	4,392	4,251	19,448	7,173	35,262	3,900	7,097	8,804	8,424	5,775	1,472	35,262
7	群馬県	10,193	8,371	43,486	12,032	73,982	4,131	13,186	18,882	19,088	14,500	4,225	73,982
8	茨城県	11,058	10,401	43,277	14,003	78,739	6,171	13,307	19,032	19,898	14,518	5,813	78,739
9	栃木県	9,167	11,566	32,154	12,163	65,050	8,033	12,561	17,071	14,980	6,383	3,022	65,050
10	埼玉県	10,682	7,911	37,389	10,481	66,443	6,392	11,518	18,049	17,430	9,773	3,281	66,443
11	千葉県	27,231	28,722	102,186	31,701	189,850	17,241	36,926	48,018	46,761	27,823	12,961	189,850
12	東京都	26,459	27,079	100,227	25,327	178,992	13,778	35,833	44,873	45,575	27,288	11,848	178,992
13	東京都	87,023	54,979	272,347	49,004	483,356	31,088	126,978	120,280	108,322	56,094	20,817	483,356
14	神奈川県	32,489	47,889	148,587	4,555	233,495	8,978	45,441	62,128	86,780	35,953	14,205	233,495
15	新潟県	11,642	12,917	40,050	8,185	72,864	5,174	16,184	18,185	17,498	12,288	3,434	72,864
16	富山県	5,331	3,785	18,087	2,758	29,971	1,476	6,113	8,583	7,967	4,583	1,589	29,971
17	石川県	8,761	5,078	21,588	3,843	39,288	1,828	6,272	10,707	10,064	6,089	2,308	39,288
18	福井県	5,162	1,677	18,101	2,327	27,297	1,175	4,785	6,886	7,271	3,334	1,856	27,297
19	山梨県	0	8,010	14,844	3,515	28,389	2,565	4,877	6,280	6,985	4,140	1,519	28,389
20	長野県	8,479	9,915	34,477	7,039	59,916	2,950	10,782	18,227	16,904	10,134	3,533	59,916
21	岐阜県	6,328	10,307	33,868	6,352	60,855	2,878	8,571	14,203	18,221	11,521	5,580	60,855
22	静岡県	17,325	14,842	65,982	7,978	104,837	5,018	19,207	27,619	28,899	18,023	6,111	104,837
23	愛知県	37,176	39,301	133,189	22,032	232,277	12,964	53,123	82,272	58,858	33,201	12,159	232,277
24	三重県	7,849	10,454	28,111	89	46,503	1,057	7,666	13,102	14,370	8,013	2,295	46,503
25	滋賀県	5,454	5,414	21,764	2,219	34,851	1,183	6,366	9,320	9,189	6,220	2,623	34,851
26	京都市	12,766	12,385	57,830	817	83,800	3,982	19,589	19,261	19,808	13,832	7,328	83,800
27	大阪府	45,644	46,639	197,503	15,524	305,309	10,244	36,322	77,395	83,327	50,830	27,191	305,309
28	兵庫県	25,525	22,154	103,141	8,256	159,076	6,612	30,054	40,098	41,344	28,235	12,735	159,076
29	奈良県	6,471	5,883	26,427	2,758	41,538	1,792	8,187	10,137	10,784	7,744	2,925	41,538
30	和歌山県	5,078	3,200	23,121	2,817	33,916	1,598	5,167	8,331	9,350	6,570	2,900	33,916
31	鳥取県	4,112	1,959	12,458	1,023	19,533	520	3,879	5,776	5,181	3,325	872	19,533
32	島根県	4,468	2,394	12,756	257	19,875	600	3,573	5,447	3,789	1,011	1,975	19,875
33	岡山県	11,978	7,952	41,481	5,830	67,241	2,731	13,124	17,125	16,717	12,170	5,374	67,241
34	広島県	21,414	11,511	58,791	3,260	94,876	3,694	18,277	25,504	25,284	15,828	6,289	94,876
35	山口県	6,414	4,888	33,341	1,967	46,410	1,394	7,053	12,176	12,469	9,984	3,724	46,410
36	徳島県	4,353	2,828	17,312	271	24,792	782	4,497	6,754	6,209	4,891	1,629	24,792
37	香川県	4,809	3,736	22,273	448	31,266	1,342	5,723	8,438	7,860	5,898	2,205	31,266
38	愛媛県	7,556	6,547	33,687	67	47,857	1,888	9,308	12,386	12,221	8,745	3,301	47,857
39	高知県	5,558	2,057	17,418	4,575	29,808	1,967	8,026	7,748	6,809	5,123	1,937	29,808
40	福岡県	23,083	19,417	111,428	122	154,050	7,598	32,387	38,358	36,176	26,555	12,995	154,050
41	佐賀県	4,334	5,208	17,054	200	26,796	1,061	5,035	7,109	6,738	5,186	1,689	26,796
42	長崎県	8,479	4,297	34,428	2,210	49,412	2,360	9,434	12,260	12,552	9,999	3,101	49,412
43	熊本県	9,854	5,549	45,756	803	62,961	2,802	12,083	15,714	15,934	12,288	4,180	62,961
44	大分県	4,772	4,891	26,720	1,263	37,446	-1,876	6,820	10,436	9,859	6,654	2,300	37,446
45	宮崎県	5,987	5,398	24,418	725	36,228	1,699	6,688	9,346	9,247	6,864	2,384	36,228
46	鹿児島県	8,186	6,853	37,137	1,328	55,504	2,253	10,526	14,173	13,311	10,072	3,169	55,504
47	沖縄県	5,401	7,547	30,073	815	43,836	2,394	10,191	13,304	10,536	6,205	1,206	43,836
48	合計	633,809	557,550	2,463,977	347,431	4,002,367	229,777	815,821	1,028,803	1,015,817	654,310	260,339	4,002,367

単位:人

平成21年度各都道府県別献血者数一覧

平成21年度各都道府県別血液確保量等一覧

Table showing blood supply, usage, and inventory for various prefectures in FY2009. Includes columns for blood volume, inventory, usage, and unused amounts.

単位:人

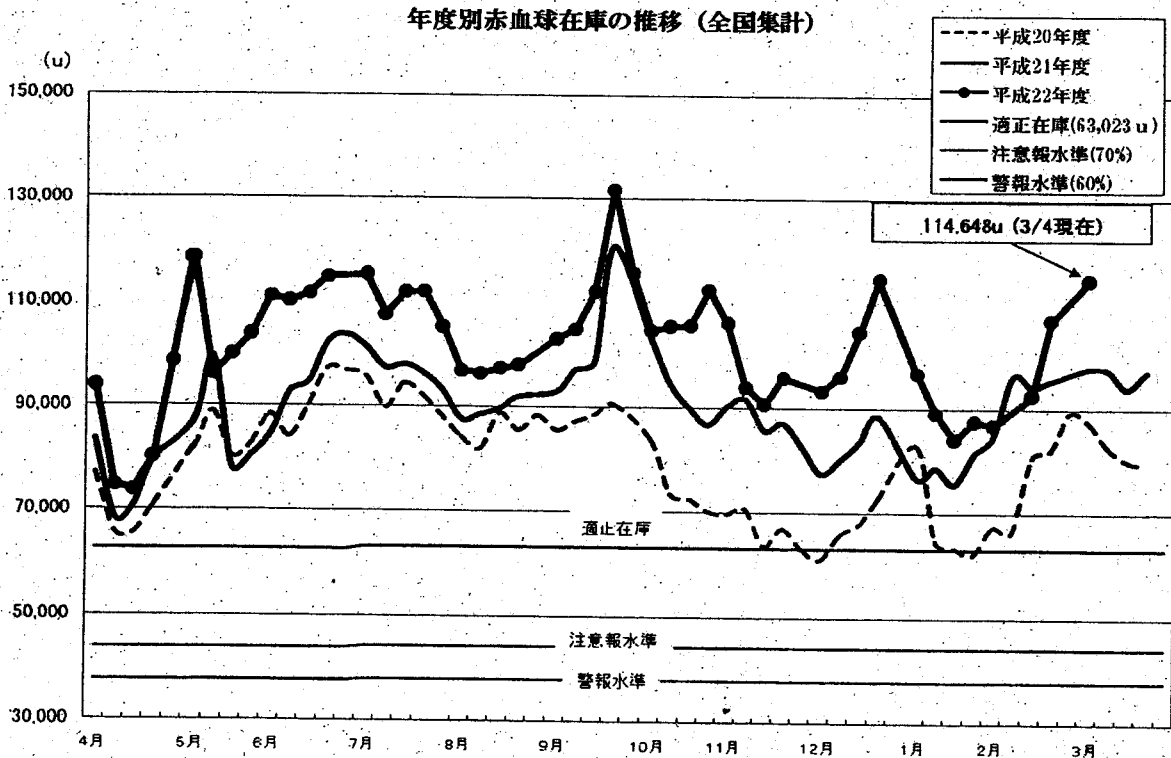
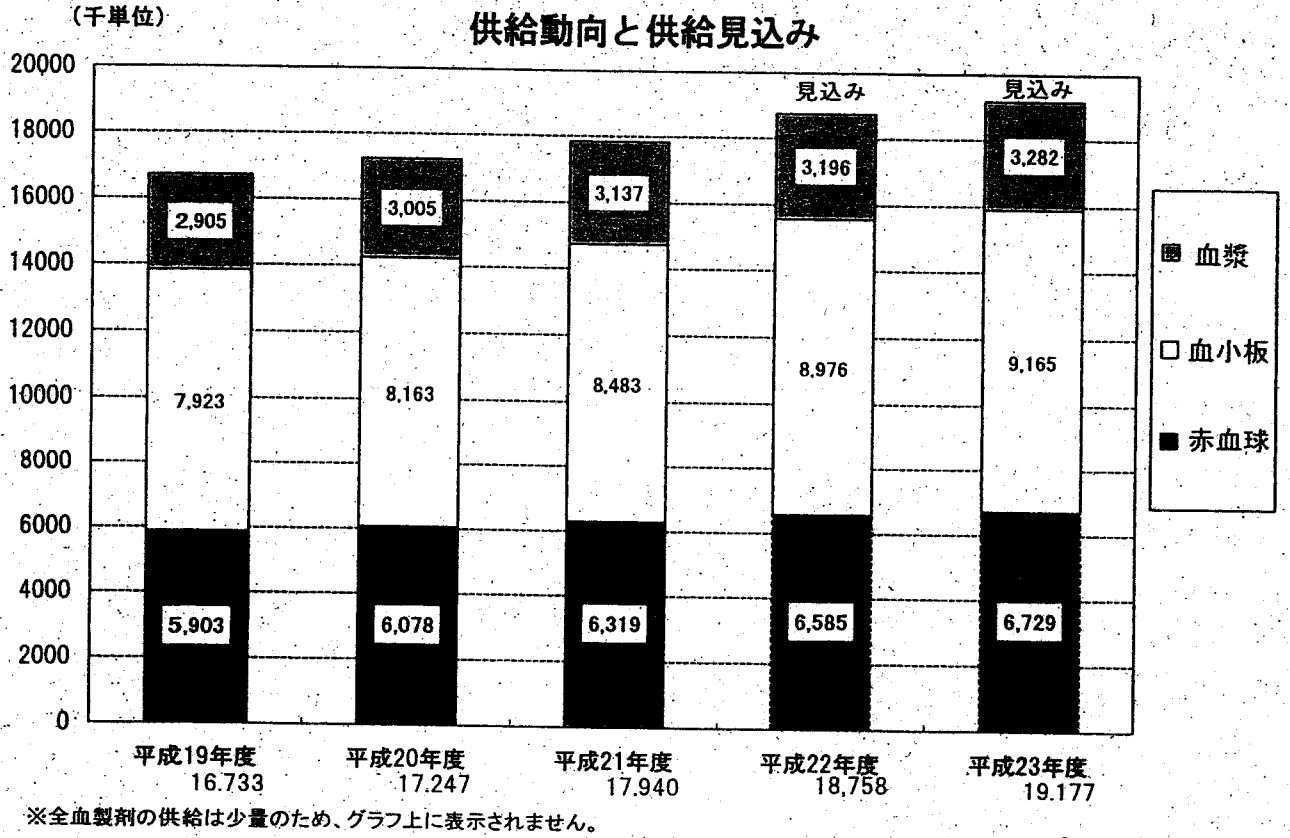
Table showing the number of donors by age group (16-19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60-69) for each prefecture. Includes columns for age groups and total donor counts.

血液センター	血液製剤(単位)	在庫数	在庫率
北海道	A	1,570	137%
	B	1,370	118%
	O	1,010	87%
	計	4,500	150%
宮城	A	1,708	149%
	B	1,580	135%
	O	1,058	91%
	計	4,840	176%
東京	A	7,270	188%
	B	6,060	149%
	O	4,290	104%
	計	19,725	194%
愛知	A	3,605	171%
	B	2,795	130%
	O	1,982	90%
	計	9,348	179%
大阪	A	4,225	197%
	B	3,310	149%
	O	2,265	100%
	計	11,040	186%
岡山	A	2,474	185%
	B	1,810	140%
	O	1,260	57%
	計	6,250	175%
福岡	A	2,900	175%
	B	2,196	132%
	O	1,454	66%
	計	7,320	175%
合計	A	23,752	181%
	B	19,121	173%
	O	13,319	192%
	計	63,023	182%

全国の赤血球の在庫状況(平成22年度)

(別紙2-2)

ブロック名	RCCLR+照射RCCLR(換算数)					過不足率	上段: RCCLR1 中段: RCCLR2 下段: RCCLR(換算数)					上段: IR-RCCLR1 中段: IR-RCCLR2 下段: 照射RCCLR(換算数)					
	上段: 適正在庫 中段: 実在庫 下段: 過不足数・対過不足率						計	A O B AB 計					A O B AB 計				
	A	O	B	AB	計			A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500	150%	29	16	21	5	71	233	150	167	109	65	
4,500	2,520	1,850	1,412	980	6,772	150%	173	95	70	75	413	956	747	542	348	2,59	
宮城ブロック	1,708	1,580	1,058	494	4,840	176%	2	0	3	1	6	314	312	320	143	1,08	
4,840	2,544	2,036	2,409	946	8,535	176%	26	17	16	5	64	1,088	1,145	1,027	396	3,65	
東京ブロック	7,270	6,060	4,290	2,105	19,725	194%	257	205	182	101	745	860	698	545	305	2,40	
19,725	3,703	3,866	3,531	2,113	18,590	194%	2,067	1,773	1,263	544	5,647	4,226	3,707	2,639	1,362	11,93	
愛知ブロック	3,605	2,795	1,982	966	9,348	179%	29	19	21	15	84	348	284	283	140	1,05	
9,348	2,562	1,966	2,172	689	7,389	179%	538	410	251	133	1,332	2,357	1,819	1,674	617	6,46	
大阪ブロック	4,225	3,310	2,265	1,240	11,040	186%	27	23	15	11	76	244	194	109	95	64	
11,040	4,118	2,461	1,849	1,096	9,524	186%	329	196	109	80	714	3,707	2,581	1,886	1,035	9,20	
岡山ブロック	2,474	1,810	1,260	706	6,250	175%	4	5	2	3	14	134	100	100	55	38	
6,250	2,104	1,085	998	522	4,709	175%	105	63	73	44	285	2,115	1,332	1,005	541	4,99	
福岡ブロック	2,900	2,196	1,454	770	7,320	175%	7	8	14	8	37	119	89	81	38	32	
7,320	2,186	1,137	1,239	914	5,476	175%	136	113	89	35	373	2,344	1,505	1,210	784	5,84	
合計	23,752	19,121	13,319	6,831	63,023	182%	355	276	258	144	1,033	2,252	1,827	1,605	885	6,56	
63,023	42,941	33,011	25,571	13,022	114,545	182%	3,374	2,667	1,871	916	8,828	16,793	12,836	9,983	5,083	44,69	



① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新採・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容 方法	内容(詳細に記載すること)
参加者 70名以上	学生献血推進協議会	継続	道内各センター管内の学生ボランティア代表	3月、8月、1月	3回	血液センター	クリスマス献血キャンペーン及び学生献血キャンペーンの推進や委員会等を通じて、献血事業の現状や血液提供の重要性を説明し、内容にパワーポイントと映像資料を使用する。
協力者数 2,000名以上	ティーンズドナー献血キャンペーン	継続	小学生から20代の若年層	11月から12月	1回	全道各献血施設	北海道とのパートナーシップで、若年層に高効率な献血方法として、管内からのパートナーシップドナー献血に呼びかけを行う。また、各施設にポスター掲示を実施する。
協力者 700名以上	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	7月	全道計5回	アリオ札幌・MORIE中島・付田川原SC・付田川原SC・長崎MESAドン・キホーテ	各施設にMORIE中島・付田川原SC・付田川原SC・長崎MESAドン・キホーテと連携し、札幌、釧路、旭川、網走、帯広のスーパーなどの会場へ、学生ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
協力者 700名以上	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	全道計5回	アリオ札幌・MORIE中島・付田川原SC・付田川原SC・長崎MESAドン・キホーテ	全道統一のクリスマス献血キャンペーン実施の際、道内各学生ボランティア団体がオリジナルのイベントや催しなどを行う。
参加者数 70名以上	血小版成分献血推進啓発	継続	血小版成分献血協力団体	2月、6月、11月	3回	血液センター 献血ルーム	日頃から血小版成分献血に協力していただいている大学生を対象に、夏休み期間中の献血を奨励するため、1回限りの献血推進講座を行う。内容はパワーポイントと映像資料を使用する。
参加者 200名以上	献血推進講座	継続	高校生、看護学生	4月、6月、10月	3回	山の平高校、武蔵野高校、北海道血液センター 看護専門学校	学校長等の協力を得るも、1時間程度の献血推進講座を行う。内容はパワーポイントと映像資料を使用する。
訪問者 200名	札幌合同大学等	継続	札幌市長	10月	1回	大通公園	札幌市内の大学10校以上が合同で実施する大学生献血推進ボランティアの表彰式を実施し、パンフレットやチラシ、ゲームなどを市庁にアピールする。
作品数 30点	献血推進ポスター展	継続	デザイン系の専門学校生等	6月～9月	1回	血液センター	絵画技術等を有する札幌市の学校へ献血推進ポスターの作成に協力してもらい、大学の移動献血車による協力時、グループ(3人以上)で協力があった場合、別途賞品を用意する。
協力者 240名	グループ献血	継続	大学生	4月～5月、10月～11月	60回	移動献血車	

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新採・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容 方法	内容(詳細に記載すること)
参加者 300名以上	施設見学の実施	継続	小・中・高・短大・大学生	通年	30回	血液センター	血液センターを見学してもらい、献血事業の現状を説明することで、献血の必要性を認識してもらい、広域用電子献血カードやオリジナルグッズを配布する。
参加者 1,500名以上	サタデーモーニング	継続	小学生(高学年)	4月～9月まで	25回	血液センター	札幌市主催のスタンプラリーに献血施設として参加する。血液センターを見学してもらい、献血の必要性を認識してもらい、広域用電子献血カードやオリジナルグッズを配布する。
60歳以上の献血者を5%増加させる	60歳代献血推進	新規	60歳以上	7月～11月まで	5回	全道各献血施設	60歳～84歳の献血者で40歳以上に献血をしていない方を対象として、献血奨励はがきの送付やチラシの配布・贈り物を実施する。
協力者 100名	55以上の男性に血小版成分献血の推進	新規	55以上の男性成分献血者	4月、5月	1回	血液センター	平成23年度から55歳以上(男性)の献血者も血小版成分献血の協力が可能になることについて、チラシやハガキにより周知するとともに、血小版成分献血を推進する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新採・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容 方法	内容(詳細に記載すること)
10社	新規献血事業所の開設・確保	継続	新規献血事業所やその献血会場周辺企業	通年	15回	各事業所等	企業間のネットワークやオンラインクラブなどを通じて、新規献血事業所を紹介してもらう。また、会社の福利などの情報も伝達する。
10社	特設型事業所の確保	継続	規模小・移動献血車の駐車場所がない企業	通年	15回	各事業所等	緊急時に献血の協力を求められるよう、定期的に広域用電子献血カードを配布するなどして献血の推進を行う。
117社	献血サポーター事業	継続	献血への理解があり、献血の推進活動の支援がある企業	通年	60回	各事業所等	献血協力企業に対して、より献血への意識を高めてもらうために、移動献血車での実施の際に「献血サポーター」をPRする。
24社以上	研修会実施	継続	事業所・団体等	通年	100回	各事業所等	各事業所等の献血を呼び、献血推進の講座を行う。内容はパワーポイントと映像資料を使用する。
参加40団体	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ会員	7月～11月	1回	ホテル札幌会場	パワーポイントと映像資料を使用し、献血推進の講座を行う。
12団体	成分献血協力団体企業との啓発	継続	事業所・団体等	通年	12回	各事業所等	ライオンズクラブやロータリークラブなどの献血推進団体を通じ、団体での協力依頼や登録者名簿の作成依頼を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新採・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容 方法	内容(詳細に記載すること)
協力者数 3,000名以上	血小版成分献血者への再来の奨励	継続	前回は献血から期間が経っている献血者	通年	4回	ハガキ・封書・電話要請	前回は献血から期間が経っている献血者に対して、献血の協力を要請する。
年度新規会員 4,000名以上	複数回献血クラブの運営	継続	複数回献血者(メール会員)	通年	1回	チラシや非接触型封筒等サトケックユニットを有効活用し、積極的に新規会員を募集する。	チラシや非接触型封筒等サトケックユニットを有効活用し、積極的に新規会員を募集する。
協力者 5,000名以上	献血の案内を発送	継続	前回は献血した際に協力があった献血者	通年	随時	要請ハガキの発送	前回は献血した際に協力があった献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程度前に発送する。
参加職員 250名	献血フォーラム	継続	日弁連等受援団体、献血推進委員会、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体	11月	1回	ホテルまたは札幌市管轄の会場を使用して、日弁連等や外部講師の講演などを行う。	日弁連等受援団体、献血推進委員会、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体を対象として、ホテルまたは札幌市管轄の会場を使用して、日弁連等や外部講師の講演などを行う。
複数回の血小版成分献血協力者(隔月内3か月間で5回以上)の割合を25%以上とする。	血小版成分献血推進キャンペーン	継続	血小版成分献血協力者	年間3ヵ月間	1回	ポイントカード、チラシ、ポスター、新聞広告	ポイントカードを作成し、隔月内2回以上は3回以上の協力者に対して、継続的に献血の推進を図る。また、プロポーション団体とのタイアップを検討する。
参加協力者 延べ8,000名	「また来て献血」カード配布	継続	献血ルームにて献血の複数回献血者を積極的に要請	通年	随時	ポイントカード、チラシ、ポスター、新聞広告	献血推進の推進策において、ポイントカードを作成し1年間で2回目の協力者に対して、記念品を贈る。
1年未満における新規献血者の再来率を30%とする。	新規献血者に対する再来率の向上	継続	前回は献血した際に協力があった献血者	通年	随時	要請ハガキ、電子メール要請	前回は献血した際に協力があった献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程度前に発送する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新採・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容 方法	内容(詳細に記載すること)
	献血推進事業	継続	複数回献血者	9月～3月	7回	ハンドマッパージなどの献血推進	血液センター 献血ルームにおいて両腕講師を招き、ハンドマッパージなど行う献血者の推進を図る。
	クラブ情報誌の作成と配布	継続	複数回献血者	11月	1回	献血事業の現状や献血協力企業への呼びかけなどを実施する。製本は、印刷会社に委託する。	献血事業の現状や献血協力企業への呼びかけなどを実施する。製本は、印刷会社に委託する。
	広告掲載	継続	顕著	通年	13回	市内新聞及び大学等パンフレット等へ献血推進の広告を掲載する。	市内新聞及び大学等パンフレット等へ献血推進の広告を掲載する。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
100人以上の参加	セミナー開催	継続	県内の大学生	5-6・7・10・11・1月	6回	青森県庁舎
1,500枚以上の配布で 応募率5% 75人以上を確保する	若年層献血者確保対策	継続	新成人	1月	3回	各市町村成人式会場
1,500人以上の届出	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学	4-3月	延べ40回	各大学・短期大学
10・20代の献血者を25%にする	若年層献血者確保対策	新規	10・20代	9-11月	1回	各献血会場

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
70人以上の参加	献血親子セミナー	継続	小学校4-6年と保護者	7月下旬	3回	血液センター
50歳以上の献血者を5%増加させる	年齢層献血者確保対策	継続	50-69歳	12-3月	1回	各献血会場

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
20社以上の届出	献血協力団体増加対策	継続	献血実施事業所	4-3月	随時	各事業所
延べ360以上の訪問	献血協力者増加対策	継続	献血実施事業所	4-3月	随時	各事業所

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
複数回クラブ会員を20%増加させる	複数回献血協力者確保対策	新規	全献血者	4-3月	随時	サイトメンバーの利用 対象による募集
2,600人以上の応募人数	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4-3月	随時	メールによる献血依頼
4,200人以上の応募人数	複数回献血協力者確保対策	継続	献血依頼対象者	4-3月	随時	はがきによる献血依頼

⑤ その他

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
周知用DVD300枚の作成	献血ルーム周知対策	継続	青森県民	8月	1回	各ルーム周知用DVDの配布

